

# コレクション展 現代書を拓く

現代の書表現は、実に多様です。大字仮名や少字数書、一字書、漢字仮名交じりの書、刻字、中国明清の時代の長条幅をベースとした多字数書など、展覧会に足を運べば多彩な表現に出会えます。「書は文字を素材とした視覚芸術」だといわれますが、今日においては、いわゆる「前衛書」など、「文字」という縛りから脱却した書表現も確認できます。

現代のような様々な書表現が誕生したのは、近代以降です。大正15年(1926)の東京府美術館(現 東京都美術館)開館を契機として、書の展示の場は美術館を主とすることとなり、以降、書は徐々に会場芸術としての自覚を深めました。美術館などの広い会場、高い天井、西洋風の壁面に適した表現を追求した結果、新たな表現が次々と誕生しました。そして、昭和23年(1948)の日本美術展覧会(日展)の書部門設置や、同年の全日本書道展(現 毎日書道展)の開催が、これの後押しとなりました。

新たな書表現の誕生はまた、書家が学ぶ古典や選文にも影響を与えました。近代より前にはあまり目が向けられてこなかった金文などの中国の古代文字や明清の時代の長条幅などを背景とした作品も多く生まれ、選文についても文字の意味内容よりも造形性を重視して選択されることも増えました。

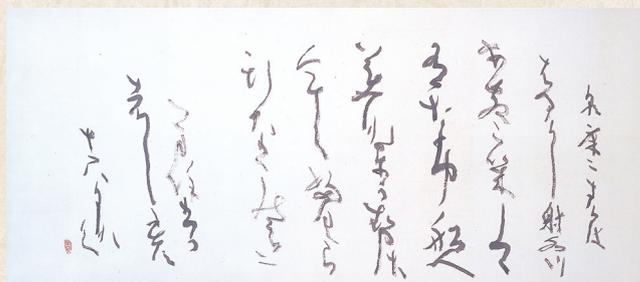
本展では、佐久市立近代美術館のコレクションから現代的な書表現に注目して選んだ作品を紹介し、現代書の様々なジャンルに触れていただくとともに、書家ごとの表現の違いを味わってみてください。



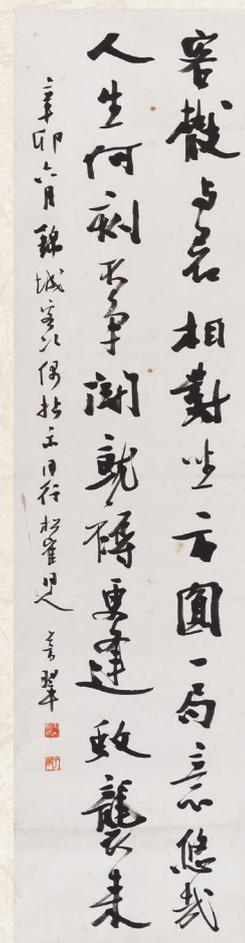
松井如流《思無邪—論語—》1969年



石飛博光《「書は画」中川一政のことばより》2011年



杉岡華歌《船人》制作年不詳



松本芳翠《勿来行》1951年

## 会期中のイベント

- 開館記念日 無料開放  
5月26日(日)
  - 「展覧会ガイド」学芸員による作品解説 \*  
6月8日(土)、6月22日(土) 14時~
  - 書道ワークショップ「書にあそぶ」 **要申込**  
6月15日(土)  
[講師] 石飛博光(書家)  
[場所] 佐久市立近代美術館 視聴覚室  
[参加費] 500円(材料費等)  
[概要] 佐久にまつわる俳句や詩を書きます。  
最後には、参加者全員で合作もつくります。
- 1 13時30分~14時30分  
[対象] 小中学生 [定員] 10人程度  
※小学生は保護者の同伴も可。  
保護者も参加する場合は別途参加費が必要です。
  - 2 15時00分~16時30分  
[対象] 高校生以上 [定員] 10人程度
- \*印のイベントは観覧料のみでご参加いただけます
  - 「要申込」のイベントは5月1日(水)9時から佐久市LINEおよび電話(0267-67-1055)で申込受付を行います(先着順)



## 佐久市立近代美術館 油井一二記念館

SAKU Municipal  
Museum  
of Modern Art since1983

〒385-0011 長野県佐久市猿久保35-5(駒場公園内)  
https://www.city.saku.nagano.jp/museum/

TEL.0267-67-1055 FAX.0267-67-1068

公共  
交通機関  
JR北陸新幹線「佐久平駅」から  
●タクシー約10分  
●JR小海線へ乗り継ぎ「北中込駅」下車  
徒歩15分

自動車  
●上信越自動車道「佐久IC」または  
「佐久平スマートIC(ETC専用)」から約15分  
●中部横断自動車道  
「佐久中佐都IC」から約10分

